

織物の体験・体感スポット

桐生の織物

伝統的工芸品

桐生を語る上で絶対に外せない「織物」ですが、その歴史はおおよそ1300年前にさかのぼります。当時の税制で上毛野国（おおよそ現在の群馬県）が納めるべき物品として絹織物が挙げられているように、すでに絹織物の産地となっていました。時は下って1600年、徳川家康の関が原出陣に際しては1日で2,410疋（着物4,800着分以上）もの旗絹を献上し、戦勝によって吉例の地として有名になりました。その後、江戸時代中期には西陣から、明治時代には海外から、最新の技術を次々と取り入れて発展を続けたのです。現在でも「桐生で揃わない織物はない」と言われるほど、織物関連業の集積地として、情報の発信地として不動の地位を占めています。

桐生織 7つの技法

1

お召織

おめしおり



桐生発祥の最高級の織物。徳川家斉が好んだことから「お召し」の名がつけました。独特の細かい凹凸が特徴です。

2

緯錦織

よこにしきおり 又は
ぬぎにしきおり



単色の経糸に、八色以上の緯糸で文様を描き出します。

3

経錦織

たてにしきおり



三色以上の経糸と二色以上の緯糸で文様を表す織物です。

1977年（昭和52年）、
七つの技法を持つ桐生織は
通商産業大臣（当時）より
「伝統的工芸品」に
指定されました。

4

風通織

ふうつつおり



二重の生地を裏表に現わすことで柄を表現する、複雑な織物です。

5

浮経織

うきたており



二色以上の経糸を密に使い、刺繍のような滑らかな紋を織り出す方法です。

6

経緋紋織

たてかすりもんおり



経糸でかすり模様を表現し、さらに複数の緯糸で文様を織り出す、非常に手間のかかる織り方です。

7

縋り織

もじりおり



経糸が絡みながら緯糸と組み合わせることで、織り目に隙間ができる一風変わった織物です。



桐生織物記念館

住 桐生市永楽町6-6

☎ 0277-43-7272

交 桐生駅より徒歩10分

桐生織物同業組合の事務所として建築され、織物や織機の展示のほか、産地価格で織物製品が販売されています。

詳細はこちら
CHECK



本町
エリア

見学

日本
遺産

JAPAN HERITAGE

織物参考館“紫”

住 桐生市東4-2-24

☎ 0277-45-3111

交 桐生駅より徒歩20分

織物の歴史の学習、古織機などを解説員の説明を聞きながら見学することができ、手織り体験や染物体験もできます。

詳細はこちら
CHECK



本町
エリア

見学

体験

日本
遺産

JAPAN HERITAGE